



愛知憲法講演会

「憲法改正、新たなステージへ！」開催さる

□去る11月5日、美しい日本の憲法をつくる愛知県民の会による愛知憲法講演会が栄の名古屋東急ホテルで開催された。120名の参加者のもと「憲法改正、新たなステージで！」のテーマで政治ジャーナリストの細川珠生氏に講演いただいた。細川講師は、特に憲法前文と家族条項について改正の必要性を熱心にお話しされた。また、有権者の半分の女性が男性と比較してまだまだ憲法改正への関心が高くない現状を訴えられた。そしてソフな会話から憲法改正に興味をもってもらうことが大切であることも説かれた。



満席となった会場



開会の挨拶 重富 亮会長



閉会の挨拶 森藤左工門理事長

東トルキスタン共和国亡命政府大統領をお迎えして

□去る10月11日～12日、東トルキスタン共和国亡命政府のアフメットジャン・オスマン大統領(カナダ在住)が、愛知県と三重県を訪問された。ウイグルの独立運動を進めるオスマン大統領は、東京で開催された国際シンポジウムに出席のため来日。短い滞在日程ではあったが、伊勢神宮を是非、参拝したいとのご希望があり、名古屋にて前泊され、翌日は伊勢へ向かわれることとなった。名古屋にて、日本会議愛知県本部の主催による歓迎レセプションを開催。重富亮会長以下、県本部の役員12名が参加。翌日は、伊勢神宮神職、日本会議伊勢支部の方々より丁寧なもてなしを受け、外宮垣内参拝、せんぐう館見学、赤福迎賓館で昼食会、内宮垣内参拝、御神楽奉納と続き、夕方には一路東京へ向かわれた。



私たちの住む愛知県にも二箇所宮内庁治定の陵墓があります。ひとつは景行天皇皇子の大碓命のお墓、もうひとつは景行天皇皇子の五十狭城入彦皇子のお墓です。平成二十六年九月下旬に参拝させていただきました。自宅から車で出発して名二環の清洲東インターから乗り名古屋瀬戸道路を経由し、猿投グリーンロードの猿投インターで降りて程なく猿投神社に到着しました。所要時間三十分強、便利になったものです。

猿投神社は式内社で三河国の三宮、主祭神は大碓命です。大碓命は日本武尊こと小碓命の双子の兄君であります。まずは猿投神社を参拝させていただきますました。二礼二拍手一礼。



猿投神社の奥には猿投山があります。大碓命墓は猿投山の山頂付近にあり、麓の駐車場には十数台もの車が停まっています。山頂までの林道には所々にハイカーが、平日にもかかわらず多くの方がハイキングを楽しんでいます。山頂には東の宮と西の宮が数百米離れてあり、大碓命墓は西の宮の奥にありました。林道を脇に車を停めてハイキングコースを片道十分程度歩くのですが、普段運動不足のため結構きつく汗をかき

ました。二礼二拍手一礼。



車に戻り山を降り東海環状自動車道の藤岡インター東に乗りました。豊田ジャンクションから東名高速に入り岡崎インターを降り国道一号线を名古屋方面に走り一時間弱で名鉄宇頭駅付近に着きました。五十狭城入彦皇子墓は蓮華寺というお寺のあたりにはありません。お寺の駐車場に停めてお寺の中を探しました。お寺の墓地の中も探しましたが見当たりません。すると、お寺の中から初老の女性二人が出てきたので尋ねてみました。すると「ちょうど私たちも今から行くところなのよ」と予想外の返事。「わかりません。」の返事を予想していたため驚きました。「車で付いて来て」といわれ、ちょうどお寺の墓地の敷地の塀を挟んだ裏側に出ると、そこに五十狭城入彦皇子墓がありました。二礼二拍手一礼。



片方の女性は「どなたのお墓かわからないけれど、宮内庁って書いてあるし皇族のお墓らしくうちのお墓が皇族のお墓と背中合わせなんて、こんな有難いことはない！だから友達この人にもここに墓を作らうようにと薦めているところなのよ。」と私は「ごもつともです！」と答え、日本武尊の異母兄弟であることを教えて差し上げました。女性たちにお礼を言って別れ、近くの和志取神社を参拝しました。二礼二拍手一礼。和志取神社は五十狭城入彦皇子を主祭神とする式内社です。帰りは所要時間一時間半ほど、全行程でも五、六時間あれば行って帰ってこられる参拝コースです。(愛知県本部事務局 松川秀康)

事務局日誌(十月) 服部守孝

二日(日)第八十五回愛知縣護國神社清掃奉仕に参加。雨催いのため、参加者は六名。八日(土)山口県萩市で開催された、吉田松陰先生を学ぶ研修合宿に参加。二泊三日で松陰先生ゆかりの地を散策しながら、遺文を拝読した。萩はちょうど十年ぶりだったが、明倫館の改

愛知県護国神社清掃奉仕予定

- 12月4日(日)午前8時開始。
■引き続き1月8日(日)午前8時開始とします。
■軍手を必ずご持参ください。また、小雨なら社殿の木枠拭きをしますので雑巾をご持参下さい。大雨は中止になりますが疑わしい天気の場合には、現場責任者の服部宛、電話(070-6583-4588)を下さい。
★11月6日は11名の参加でした。ありがとうございました。



(11月6日 奉仕後に撮影)

●「日本の息吹」を引き続きご購入くださいますようお願いいたします。

修などが進められており、すっかり様子が変わっていた。野山獄にて詠める幾たびか囚はれの身になりてでも人の誠を教へ給へり囚はれの身を悲しまず活き活きと獄の友らを導き給ふ松陰先生生誕地にて詠めるゆるゆると坂を登りて息つけば遙かに見ゆる指月山かなこの地にて生れまじしこと偲びつつ 杉家の跡に畏みて立つ 松門一族の墓地にて詠める 尊皇の誠一筋一族の御霊の前に畏み拜がむ 十一日(火)東トルキスタン共和国亡命政府大統領を名古屋にお迎えして歓迎レセプションを開催。翌日は、伊勢神宮にも同行させていただいた。二日間を通して心に残ったのは、物静かで温和な方だったこと。そして何よりも日本文学に深い造詣を持たれていることだった。生死をかけた独立運動の、激しさとか荒々しさを微塵も感じさせる方ではなかったことである。レセプションに参加された女性には、「祖国に戻りたくても戻れない民族の悲しみを思い、日本人に生まれた幸福を再び噛みしめている。今後は、日本人として出



去の報道。明日、明後日の皇太子殿下行啓はお取りやめになったと、担当官庁より情報を得た。要所の役員、団体に奉送迎中止の連絡を取る。

来ることをさせていただきたい」と、涙ながらに述べられた。伊勢から帰る車中、大統領は「神道の原点は稲作であることがよくわかった。そしてこの稲作が日本人の信仰となり、道徳となり、それが今日まで受け継がれている。伊勢神宮に参拝できて本当に嬉しかった」と仰せだった。十八日(火)所要にて滋賀県長浜市へ。用務終了後、市内を散策。長浜城、景雲館、旧長浜驛舎を巡る。景雲館は明治天皇行幸の玉座がいまなお大切に保存され、一般公開もされている。